

健康と生きがい、
シニアライフを考える

ぜ 海風

特別・特定医療法人社団
社会福祉法人

松涛会広報誌

No.28 盛夏号
平成21年



松涛会理念

「医療・介護・福祉の連携、
地域との連携」の推進により、
心豊かな地域社会に
貢献いたします。

イベント開催報告
緩和ケア病棟10周年
記念講演会・市民参加型シンポジウムを開催して
松涛会の取り組み紹介
プリセプター制導入
リハビリ機能強化体制
杜の宮の一周年
ユニットケア半年が過ぎて
ニュース&トピックス
新任スタッフ紹介
平成20年度社会福祉法人決算報告
日本財団助成事業完了
事業所探訪
ケアタウン山の田着工にあたって

6/13(土)
緩和ケア10周年
記念講演会・市民参加型シンポジウム



(会場) 下関市民会館 中ホール

記念講演会・市民参加型 シンポジウムを開催して

平成二十一年六月十三日(土)下関市民会館中ホールにて、安岡病院緩和ケア病棟の開設10周年を記念した講演会及び市民参加型シンポジウムを開催しました。一般市民や医療従事者ら約400名が参加。

午前中は記念講演会として、下稲葉かおり先生(オーストラリア・モナシユ大学看護学科レクチャラー)が、「緩和ケアのこころ。最期までともに生きて」と題して講演。緩和ケアを「死の時まで生を支えること、伴走させて頂くこと」と表現され、「患者や家族と一緒にさまざまな喪失のプロセスを経験する医療従事者も心のケアが欠かせないこと、又自分の限界を知り、バーンアウトを防ぐことが大切」と患者や家族だけでなく、医療従事者に対しても呼び掛けられました。

お昼は松涛会セントラルキッチンより、塩分・カロリー控えめ、保存料・着色料なしの手作り弁当(480食)を感謝の気持ちを込めて無料配布致しました。

午後は柴田先生(安岡病院緩和ケア病棟専任医師)、森國師長(安岡病院緩和ケア病棟看護師長・緩和ケア認定看護師)、大田医師(彦島内科院長)によりランチョンセミナーが実施されました。



松涛会 理事長
斎藤 正樹

その後、市民参加型シンポジウム「市民の安全・安心を守るためのがんネットワークづくりにおいて」をテーマに、普段病院や自宅などで患者と向き合う医師や看護師、市民代表ら8人が、座長、パネリストとなり話し合いました。

市民代表で出席した女性は、20代の息子さんががんを患っている体験を告白。「同じがんで苦しむ人たちが将来の不安などを話し合い、助け合えるような会があればいい」と患者や家族のネットワーク作りの必要性を訴えていました。当院の柴田医師は、急性期病院から緩和ケア病棟へ移る際に気持ちの切り替えがうまくできない患者、家族が多いことを報告。「誰もが生きていけば病気になる、亡くなっていく。がんは特別な敗北ではない。私は、最後は拍手で送り出したいと思います。」と述べました。

大会は無事終了し、お客様をお見送りする時、皆様笑顔で「今日の講演は本当によかった。」「緩和ケア、ホスピスというのがどういふものかわかった。」と言って頂きました。これは、協賛、後援して下さった方々や当日頑張った頂いたボランティアの皆様、スタッフのお陰です。ご協力ありがとうございました。

■記念講演会・シンポジウム プログラム

- 10:00～ 開会挨拶
特別・特定医療法人社団松涛会 理事長 斎藤 正樹
- 10:05～10:30 来賓挨拶
衆議院議員 安倍 晋三
下関市長 中尾 友昭
下関市保健所所長 渡辺 真俊
下関医師会会長 木下 敏
山口県看護協会下関支部長 室井 由美子
- 10:30～12:00 記念講演「緩和ケアのこころ～最期までともに生きて」
モナシユ大学看護学科レクチャラー 下稲葉 かおり
- 12:30～13:15 ランチョン・セミナー
○講演1 「一風等として10周年の振り返りと今後の抱負」
安岡病院緩和ケア病棟 ホスピス長医師 柴田 冬樹
看護師長 森國 秀美
○講演2 「在宅療養と緩和ケア」
彦島内科 院長 大田 純夫
- 13:15～13:50 リフレッシュ体験、ひまわりコーラス
- 14:00～15:30 シンポジウム
「市民の安全・安心を守るためのがんネットワークづくりにおいて」
座長 篠原 正博(下関市立中央病院緩和ケアチーム長)
シンポジスト 渡辺 真俊(下関市保健所所長)
末永 和之(総合病院山口赤十字病院副院長)
赤司 和彦(下関市医師会在宅医療ネットワーク担当理事)
田崎 育子(市民代表)
田村 良彦(読売新聞東京本社医療情報部次長)
柴田 冬樹(安岡病院緩和ケア病棟ホスピス長)
田村 早苗(彦島訪問看護ステーション師長)
- 15:30～ 閉会挨拶
安岡病院院長 原 好弘



緩和ケア講演会参加者の声

主人の父が昭和五十九年に喉頭癌で最後は血管に転移して亡くなりましたが、最期は痛みが激しく可哀相でした。私たち夫婦は、これから先は緩和ケア病棟が絶対に必要と思っています。下稲葉先生のお話に心から感動しました。涙が溢れて仕方がありませんでした。私も人の心の解る技術と知識と人格を磨いていきます。

〈61歳女性 一般〉

この四月に実妹を亡くしました。某病院にて手術、抗癌剤治療を受けていましたが、一切の説明もなく(当初三月末に治療が終わり退院との説明もあり)、突然「死期が近いので緩和ケアのある病院に紹介状を書きます。」と言われました。なぜもっと早く言ってくれなかったのかと腹立たしく思いました。せめて一ヶ月前に言ってくれたらもっとと連れて行きたい処もあったのに...と、今でも恨めしく思っています。最期に安岡病院で過ごされたことがせめてもの慰めです。とても良くして下さい感謝しています。

〈68歳女性 一般〉

現在、夫がC型肝炎から発症した肝癌手術後、二回目の再発をしています。仕事はしていますが、自分中心の生活をしています。(痒みに困っています)今後何度治療・再発をするのか気に病みます。下稲葉先生の講演、感動いたしました。ありがとうございます。お弁当ごちそうさまでした。とても美味しかったです。感謝。

〈55歳女性・医療関係〉

緩和ケアに移行する際、末期ながらも本人には治療意欲があるため、なかなか緩和ケア病棟を勧めづらい状況があります。緩和ケアという響きにまだまだ「治療をしない」というニュアンスが含まれる印象なのが残念。その人らしい生活しながらガン治療を進めて行くために、どんな環境を準備したら良いのでしょうか？スタッフひとり一人の連携が重要なものの一つでしょう。

〈28歳女性・医療関係〉



記念行事手作り弁当に寄せて

栄養科長 黄丹 惠美子

緩和ケア10周年記念行事で、来賓・来場者に、手作り弁当480食を用意するという事は、栄養科にとって初めての経験でした。

問題は、利用者様への一日2千食の食事を並行して提供しなければならぬこと。食中毒事故を起こすと、その2千食の食事がストップするので短時間に安全に作り上げること。そういったリスクがクリア出来たのも、真空調理という新しい調理技術を持っている当院だからこそ出来たことだと思っています。

当院自慢のメニューが、我こそ主役と主張出来るように九マスの弁当容器を準備し、献立てはもちろん、箸袋・熨斗紙・お土産のクッキーも全て手作りとした。後片付け等、様々なシーンで松涛会職員のご協力をいただいたこと、そして来場者の「美味しかったよ」のメッセージは、栄養科の大切な宝物となっています。



プリセプター制度導入の試み



看護部 副看護部長
森岡 秀美

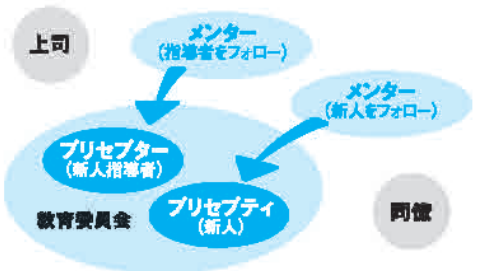
看護部は、今年から、プリセプター制度を導入しました。プリセプター制度とは、一人のプリセプティ(新人看護職または新人介護職)に対し、一人のプリセプター(先輩指導者)が、マンツーマンで、意図的・段階的・系統的な指導を行い、新人の能力の育成を図る教育方法です。

このプリセプター制度導入の目的は、新人職員が新しい環境で仕事する中、業務だけでなく精神的な不安を和らげ、リアリティショックを軽減し安心して働けるよう、そして、安岡病院の一員として定着し成長していくことを願うためのものです。

このために、プリセプターとなる職員を対象に、ビジネスブレインの永井先生を招いて研修も行いました。まだ取り組み始めたばかりですが、新人介護職の方から「自

分の態度や顔色を見て、指導者が先に声をかけてくれる」という言葉を聞きました。しかし、病棟によって指導体制にばらつきがあり、課題は多いようです。今後、プリセプティ、プリセプターともに成長し、職場環境、教育環境の見直しと改善の機会とし、職員の活性化を図っていききたいと思っています。

プリセプター制度のしくみ



リハビリ機能強化体制に力を入れて

老人保健施設コスモス

コスモスでは、5月より理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の6名体制となり、365日毎日リハビリを実施しています。

新しく訓練用マットや自転車エルゴメーターを導入し、集中的な個別リハビリが必要な方から介護予防対象の方まで、幅広く対応できるようにしました。また、認知症リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

若いスタッフばかりですが、ご利用者様、ご家族様のニーズに応えられるよう努めて参りたいと思っています。

彦島内科通所リハビリ

彦島内科通所リハビリでは、リハビリサービス充実の為に、3つの改善を行いました。その内容としては、①リハビリスタッフを増員し、個別リハビリを必要とする利用者様全てに個別リハビリの提供を行えるようにしました。

- ②利用者様毎に個別性のある運動・作業を行うようにしました。
- ③短い時間で集中的にリハビリを行いたい方の為に、2時間以内の短時間通所リハビリを開始しました。

この3つの改善により、年齢、性別、介護度、認知度等に関わらず、全ての利用者様に効果的なリハビリの提供が行えるようになってきました。

今後も利用者様、ご家族の幅広いニーズに対応出来る通所リハビリを目指し、サービス力向上に努めていきたいと思っています。

作業療法士 山本 直美



理学療法士 三原 康孝



「杜の宮」の二周年

杜の宮 所長 川尻 日出夫

「良きホームに 入れてもらってと

母は言う 言葉確かに 耳に聞き」

この短歌は、有料老人ホーム杜の宮に入居され、隣接の小規模多機能施設のサービスを利用されている方の家族が、朝日新聞に投稿されたものです。ご本人は入居当時、車椅子を必要とする状態でしたが、今では独歩ができるまでになられております。

先日、遠方の親族がお見舞いに来られました。ご本人の元気な様子をみて、驚いたように質問をされてこられました。「このホームに来るまでは、見舞いに行っても私の顔が解らなかつたのに、今日は会った途端に私の名前を呼んでくれました。ここではどのようなお世話をされたのですか？」

「特別なことはしていませんが……」と思わず普通に答えてしまいました。が、内心はとてもうれしく、「杜の宮」のハード面とソフト面のマッチングの賜物と思いました。

ハード面は、安岡八幡宮に隣接する自然に恵まれたロケーション、「木」の香りとやさしい採光、またOMソーラーシステムによる自然空調を取り入れた建物、一面の芝生の片



隅には野菜が植えられ、四季折々の木々や花を楽しむことができる広い庭。これらが融合して特徴ある「杜の宮」の環境を醸し出しています。一方ソフト面は、介護が普遍的また偏在化しないように心がけながら、利用者と個々に向き合うケアを目標にしています。

オープン当時は不安もありましたが、間もなく一周年を迎えます。庭の芝生もすっかりと根づいて来たように、私たち杜の宮スタッフも青々とした芝生に負けないよう地域に根づいた介護サービスの提供をしたいと思えます。

ユニットケア 半年が過ぎて

特別養護老人ホームはまゆう苑 介護係長 手代木 千里

「ユニットケア」と言っても、そこで生活する入所者の趣向やADL状況、設備等のハード面によって様々なケアの方法が考えられます。そのような中、手探りでユニットケアが始まりました。

ユニットスタッフによるミーティングを幾度と重ねながら、常にベストの方法を試行錯誤を繰り返してまいりました。改めて、日々の個別ケアの難しさを痛感しています。それでも、少しずつ特色が出てきました。

二つのユニットには「撫子」と「さくら」という名前が付けられています。撫子ユニットでは、個室のスペースを最大限に活用できるよう、スタッフはもちろん、ご家族の意見も取り入れた居室内配置を行っています。また、個別対応の例としては、毎日15分から30分間、個別に用意された問題集をスタッフと一緒に解いたり、ピートルズ



が好きだった方とは、その曲を聴きながら思い出話を語ってもらおうなど行っています。桜ユニットでは、スタッフと一緒に植物を育てることがコミュニケーションの円滑化を促し、信頼関係づくりにもなっています。面会時間も延びている状況です。

今後はご家族の意見や希望も交えて「思い出作り」の計画及び実施のための準備中です。苑には従来型の多床室もあり、ユニットを併せ、はまゆう苑らしさを活かしたよりよい介護が提供できるよう、一同頑張っています。

安岡海岸清掃

六月二十一日、午前8時30分より10時まで、安岡自治会の方約30名と松涛会スタッフ23名による安岡海岸の一斉清掃が実施されました。

タオルで汗を拭きながら、黙々と海岸清掃に励んだ結果、発砲スチロール、ペットボトル、空き缶、ビニール袋が散乱していた海岸も、1時間半でごみひとつないきれいな海岸へと変わる事ができました。当日参加してくれたスタッフが感謝しながら、人がひとつの目標に向かって一丸となった時の「力強さ」を肌で感じました。

今後も地域のための活動を行っていききたいと思います。



百一歳野津実さん、ピアノ演奏会

四月十日(金)、地域交流ホームで百一歳の野津実さんによるミニピアノ演奏会と談話会が行われました。昨秋に放映されたNHKの「百歳バンザイ」での元気な姿を見て、斎藤理事長が直接野津さん宛てに書いた手紙がもとで、今回の演奏会が実現しました。野津さんは、集まった約200名の聴衆の前で、ベートーベンの「月光」を20分かけて演奏。百歳のお年寄りが弾くとは思えないその力強く美しいピアノの音色に、会場全体が魅了され、演奏終了後は拍手が鳴りやみませんでした。長寿の秘訣はと聞かれ、「美しい音を聞くこと、よく噛んで食べること、あまりよくよくよいこと」と答えられた野津さん。今後も健康で活躍されることをお祈りします。



フロイデ彦島「シルクを囲む会」

五月四日(月)北崎美枝子さんと指導犬シルクをお迎えし、「シルクを囲む会」を開催しました。お二人(?)ともフロイデ彦島では、すっかりお馴染みですが、今回あらためて、指導犬と接する時の注意点や、ハーネス(胴輪)をつけたり時とはずした時のシルクの表情の違いなど、わかりやすく説明していただきました。お話を伺う中で、北崎さんとシルクが、いかに強い信頼と絆で結ばれているかを感じることができ、参加された皆様に感動と優しさを与えていただきました。最後に皆様の同愛を愛嬌よく歩きまわるシルクの姿を見て、「かわいいねえ」「賢いねえ」という声があちこちで上がり、会場に笑顔があふれました。



口腔ケア勉強会

松涛会の施設利用者様に、日常的な口腔衛生状況を確認し、個別に適切な口腔ケアを行っていただきますが、これによって口臭予防、口腔内舌苔の除去更には感染症を予防し、口腔機能維持向上を目指しております。

そのため、毎月一回、協力歯科医療機関でもある、つくぎ歯科医師より、利用者様個々に対する介護スタッフへの助言、指導が行われております。

地域交流ホームでの今回(平成二十一年七月二十四日)の勉強会は、この助言、指導の一環として開催されたものです。つくぎ先生のわかりやすい説明の中、松涛会職員、約八十名が聴講いたしました。



新任スタッフ紹介



統括本部・副本部長
浅田 光博

前の職場で学んだ保健・医療・福祉の経験を松涛会グループで活かし、地域医療の構築にお役に立てればと考えております。
経営も重要ですが、まず医療の基軸は「患者・家族にある」ことを念頭に、バランスの取れた組織の永続を目指したいと思います。



安岡病院
3病棟師長
岩本 守代

窓からの心地よい潮風に往復百二十キロの通勤の疲れも癒されています。優しく元気なスタッフと共に、日々回復されていかれる患者様から安岡に来て良かったと言って頂ける環境を目指し、一生勉強と言う精神を忘れず管理者として成長して行きたいと思えます。



統括本部
磯中 義和

四月より松涛会の一員として松涛会グループと下関市の発展の為に日々勉強しております。
松涛会理念である3つの輪(医療・介護・福祉)を胸に、地域に貢献します。虚心坦懐の気持ちを忘れず、素直になんでも吸収していく所存です。宜しくお願いします。



安岡病院
6病棟師長
杉本 美子

再就職して、早一ヶ月近くが経ちます。最初は戸惑うことも多くありましたが、病院職員の皆様はじめ、病棟スタッフの方々がとても親切で温かく迎えていただきとてもスムーズに溶け込むことが出来ました。今後は、今まで培ってきた知識・技術を活かしながら介護福祉について勉強し、精一杯頑張っていきたいと思っております。

おめでとう!「緩和ケア認定看護師」

山本妙子さん(安岡病院3病棟・看護主任)が、この度「緩和ケア認定看護師」の資格を取得されました。安岡病院では、森國師長に次いで2人目となります。

社会福祉法人松涛会平成20年度決算報告書

平成20年度貸借対照表
(平成21年3月31日現在)

		(千円)	
流動資産	464,411	流動負債	60,287
固定資産	3,132,403	固定負債	661,425
(基本財産)	2,816,065	基本金	1,018,688
(その他固定資産)	316,338	国庫補助金等特別積立金	772,703
		次期繰越活動収支差額	1,083,711
		(内当期活動収支差額)	54,795
資産の部合計	3,596,814	負債及び純資産の部合計	3,596,814

脚注 減価償却費累計1,047,077千円

平成20年度事業活動収支計算書
(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

		(千円)
事業活動収入		969,123
事業活動支出		905,752
事業活動収支差額		63,371
事業活動外収入		612,178
事業活動外支出		621,103
經常収支差額		54,446
特別収入		20,350
特別支出		20,001
当期活動収支差額		54,795
前期繰越活動収支差額		1,028,916
次期繰越活動収支差額		1,083,711

日本財団助成事業完了のお知らせ!

この度、日本財団から2008年度助成事業の交付を受けて左記の事業を完了いたしました。
ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、日本財団をはじめご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

- 一、事業名 ヘルパー車の整備
- 一、事業費総額 五十八万六千五百円
- 一、助成金 三十五万円
- 一、整備車両 スズキアルト
- 一、施設名 脳いきいきデイサービス ねぎ
- 一、設置場所 下関市横野町三丁目十六番五号
- 一、完了年月日 平成二十一年二月二十日

社会福祉法人 松涛会
理事長 斎藤 正樹



はまゆう苑デイサービス

●ゴーヤのグリーンカーテン

六月中旬にデイサービスのご利用者様とゴーヤを植えました。一カ月もしない間に苗はどんどん伸びていき、今では天井まで到達しています。黄色い花が咲く頃に「ゴーヤの実が何本できるか」をクイズにして、投票箱を設置しました。ゴーヤの実が一つ二つ実をつけると皆様気になり始め、何度も見に行かれては話に花が咲いています。立派なグリーンカーテンにもなり、ゴーヤの実で夏バテ解消の涼しい夏になりそうです。



ケアタウン山の田着工にあたって

近年、わが国は、本格的な高齢社会の到来、人口減少という転換の時期を迎えています。さらに、年金や社会保障費など、高齢者の医療・介護を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。一方、核家族化により単身世帯・独居世帯の急増、独居老人や老老介護の問題もあり、高齢者などの住環境は大きく変化しています。

地鎮祭

平成二十一年七月十一日(土)十時三十分よりケアタウン山の田の地鎮祭が無事執り行われました。松湧会理事長、副理事長、安岡病院院長、副院長、看護部長を始め松湧会からは十四人、安成工務店からは安成社長を始め八人が出席されました。これから平成二十二年四月オープン(予定)に向けての準備を進めていくにあたり、スタッフ一同更に身が引き締まる思いでした。



こうした状況で、医療・福祉の視点から医療介護の専門知識の融合、居住空間の確保、「安心」を持つてお年寄りが生活する環境が必要であることから「ケアタウン山の田」をつくりました。

お二人またはお一人で生活されているお年寄りの方や、最近健康に不安がある方等、ご連絡下さい。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

常務理事 斎藤 英樹

